

平成 29 年度第 1 回愛媛県地域公共交通再編協議会 議事録

日 時 平成 29 年 7 月 20 日 (木) 13 : 30 ~ 15 : 05

場 所 愛媛県水産会館 6 階大会議室

1 開会あいさつ

事務局 : 資料を確認させていただく。次第に沿って説明させて頂く。

西本会長 : 会長を務めさせていただく西本です。公共交通を取り巻く環境は、近年、過疎化や自家用車の普及に伴い、利用者が減少している。また、運転手や船員などの担い手不足なども顕在化し、大変厳しい状況が続いている。一方で、車を運転できない高齢者や学生にとっては、公共交通というものは、通院・通学など日々の暮らしに欠かせない存在である。県としては、公共交通事業の皆さまはもとより、国や市町と連携して様々な対策を行っている。生活バス路線や離島航路に対する補助や担い手の確保など、懸命に維持に努めている。今年度は、地域の公共交通ネットワークの崩壊を防ぎ、持続可能な形に再構築を図るため、地域にとって望ましい公共交通網の姿を示すマスタープランとして、地域公共交通網形成計画を、県下全域を対象とした計画を策定する予定である。本協議会においては、本県の公共交通の現状と課題を明らかにしたうえで、将来のあるべき姿や活性化方策について議論いただき、公共交通を将来的にも維持できるような、オール愛媛の体制で実効性のある計画を策定したい。

事務局 : 配席図をもって参加者の紹介とさせていただきたい。

2 副会長の選任について

西本会長 : 本日の協議会は公開で行っていく。議事に沿って進めていく。本協議会は、県において、4月に設置要綱を制定し、知事から関係者の皆さまに委員をお願いしている。まずは協議会の設置要綱及び副会長の選任について説明いただく。

事務局 : ※資料 1 に沿って説明

西本会長 : 副会長は公共交通についての専門的な知見をもっており、これまでの公共交通施策の支援経験が豊富な愛媛大学の松村教授をお願いしたい。

松村副会長 : 専門は地域計画や公共交通計画である。公共交通の利用促進ということで以前から取り組んでいるが、ここ 10 年くらいで公共交通についての認識が変わってきていると感じている。公共交通の社会的な意味を十分認識して、直接的に関わってくるというのがいろんな地域で行われているが、県レベルで公共交通網形成計画を作っているのは、全国でも事例が少ない。愛媛県が全国で模範となる計画を作っていければと思う。実際のデータをもとに議論ができるのは、最大のチャンスである。公共交通の難しさとして、面でのデータをなかなか取得できないというのがある。今回はデータ取得の最後のチャンスかもしれない。これをきっかけに県内の公共交通網の将来像というものを考えていきたい。できる限り知恵を出していきたい。

3 愛媛県地域公共交通網形成計画策定事業について

事務局 : まずは事業の概要と実施体制について説明させていただく。計画策定の支援として、日本工営株式会社を選定させていただいた。

※資料2に沿って説明

日本工営 : 日本工営と申します。弊社では、いろんな地域で公共交通の再編を手掛けている。愛媛県においても地域によって特徴が違うことが把握しつつある。地域の特徴を踏まえて計画を策定していきたい。

事務局 : では、愛媛県地域公共交通網形成計画策定事業について、日本工営より説明いただく。

※日本工営より、資料3に沿って説明

事務局 : ご質問はございますか。

愛媛県警本部 : 2点ほど質問がある。まず1点目、P.1に利用実態とある。バスや電車などの現状利用とあり、それは分かるが、移動実態とニーズの問題が気になる。例えばP.9には、移動実態調査の実施とあるが、これは利用実態でないか。潜在的な需要を見出すのであれば、もう少し広範囲のデータ収集に着目されてはいかがか。愛媛大学のほうで、インターチェンジで車利用者へのアンケートなども実施したという話は聞いたことがある。公共交通に転換できる層の調査もしてはいかがか。もう1点は、P.14の④の留意事項のなか、路線の高速化とあるが、道路交通の速度には慎重な意見もあるが、幹線、準幹線とはどういった意図か。高速化とはどういう意図か。お答えいただきたい。

日本工営 : 利用者だけでなく幅広く意見を聞く必要とあるが、おっしゃる通りである。今回、沿線地域住民へのアンケート調査を実施する予定であるが、これはバス利用者だけではなく、バス路線の沿線住民の意見を聞く予定であり、利用者以外のニーズも把握可能であると考えている。また、利用ニーズが高い高校生についても県内の全高校への調査を現在実施している。こういったところで利用者以外のニーズを把握していきたい。他に愛媛大学さんの調査などで活用できるものがあれば、今回も取り入れていきたい。2点目の高速化という表記についてであるが、速度を上げるという意味ではない。路線バスには幹線系統と枝線系統がある。利用によってごちゃごちゃしている場合がある。速度を重視する路線などもあるが、迂回などにより速度が低下している場合もある。県内でも高速バスが発展しており、路線バスと2重運行している箇所については見直していきたいと考えている。

二宮委員 : 乗降調査は1日だけの調査データとあるが、実施日数が少ないのではないか。2～3日くらいの期間を調査する必要があるのではないか。

日本工営 : 本来なら毎日取りたいが予算的に厳しい面がある。バス利用状況は、事業者さんのほうでも調査はしているので、それも活用していきたい。事業者さんのデータは乗降記録があるが、利用者属性はわからないのがほとんどである。今回、対象路線において、利用者属性や利用目的、頻度などをアンケートで把握していき、その他のデータと整合をとって分析していきたい。

八幡浜市 : P.12の交通モード間乗継実態調査のなかで、WEBアンケート調査とあるが、詳細を教えてください。

日本工営 : 聞き取りアンケートを補完する形で、同じような調査をWEBアンケート形式で実施していきたい。例えば楽天さんやYAHOOさんなどの会員さんを対象に、利用状況を踏まえて、同じようなアンケートを実施していきたいと考えている。

西本会長 : 交通事業者さんの協力が欠かせないので協力いただきたい。事業者さんの意見もお聞き

したい。

伊予鉄道 : 人口減少社会が迫っている中、対策は急務である。現状でもバス路線維持は大変苦しいなかで、更に人口減少で苦しくなってくる。利用促進はいろんな方向でお願いしたい。役割分担も明確にする必要がある。大型バスは30～40人乗れるが、人口減少が進めば、小型化として、タクシーなどいろんな交通手段が必要になるかもしれない。東予、中予、南予で地域特性がかなり違ってくるので、地域にあった対策を地域住民などと一体になって考えていきたい。

伊予鉄南予バス : 南予バスに赴任して1年たつ。それ以前は、松山市などで生活していた。南予では、廃校になった小学校・中学校の方が多いようにも見える。先日も小学校が廃止になった。山の中の平屋ではなく、立派な鉄筋コンクリートの学校も廃止になっており、少子高齢化の進行を実感している。公共交通や社会基盤も今まで通りにはいなくなってくる。再編の計画により、良くなればいいと思う。まずは現状の実態をつかむのが最優先と思うので、今回調査を実施していただきありがたく思っている。市町の方には大変な負担があるとも聞いているが、将来的な計画策定のためにご協力いただきたい。

宇和島自動車 : バス事業者ではなかなか利用実態を掴みきれてない。乗降についてのデータは市町などに提供したりもしている。利用実態の調査をきめ細かくしていくなかで、利用者の要望についての改善点なども分かってくるのでないかと期待している。また、複数交通の競合についての解決策などについても検討いただきたい。

瀬戸内運輸 : 私の考えは、既に皆さんに言っている。平成25年12月に交通施策基本法ができた。今年6月の日本バス協会のなかでも、平成29年に補助金が削減されるのでないかとの話も聞いた。補助金はいただけると聞いているが、これがもらえなくなると、路線バスは廃止していかなくてははいけないので、その辺はしっかり配慮いただきたい。

JR 四国 : 資料2のなかに JR 四国利用者の乗員推移があるが、ここに示された通り、全区間で輸送量が落ちている。JR 北海道が路線廃止をしているということで取り上げていたが、弊社の社長の記者会見でも、廃止するのではないかとの憶測も流れている。いきなりの廃止はありえないが、今後公共交通がどうあるべきなのか、四国の公共交通をどうしていくべきなのか、有識者も交えて懇談会など開催して、いろんな意見を聞いていきたいということで、計画を進めている。我々もできるだけ努力はしていきたい。新車の製造などもやっているが、最近は観光列車に方向の舵をきっている。通勤客も大変大事であるが、新たな需要を掘り起こす努力も重要である。各方面のいろんな角度から調査をして、新たな需要の掘り起こしをしていきたい。

松村副会長 : 今回の協議の中でデータをしっかり取るが、このデータは極めて貴重である。交通事業者が事業の改善に使うということ以外に、住民の方々にお知らせするという話もある。利用者が減っているという状況を通常の方は知らない。利用者が半分になっているのに、公共交通がもつわけがない。そういう状況を住民の方々にしっかりと理解してもらうことも重要である。地域のバスの状況をご存じでない方が多いので、地域の方々にも提示していく必要がある。いいサービスを提供するのは大前提であるが、サービスを提供しても利用されないと衰退する。現状を提供できる機会を作っていってほしい。公共交通の再編計画検討をしている市町村だけでなく、それ以外にも各市町には委員会はたくさんあるはずがあるので、様々な場面でご活用いただきたい。

事務局 : では、続きまして、愛媛県の現状について日本工営より説明をお願いします。

※日本工営より、資料4に沿って説明

- 西本会長** : 東予、中予、南予の違いが客観的に示されていると思う。利用者の立場ということで、公共交通利用者の皆様にご意見を伺いたい。
- 二宮委員** : バス路線をやめるとするのは経済的な理由かもしれないが、利用者が少なくても走らせるという方向にもって行っていただきたい。家から日赤病院に行くバスが無くなったが、お年寄りにとっては困る。ほしいけども無くなっている。なぜ無くすのかと伊予鉄さんに以前聞いたときは、赤字路線だからというが、そうすると走らせるところがない。伊予鉄さんは人間がいるところを走らせれば儲かると言っていたが、そうしていくとどうなるのか。バス事業者さんには、赤字路線になったときにどういうふうの工夫をするのか。JRさんの伊予灘ものがたりはいつも一杯である。バス路線のほうでも、宴会しながら楽しめるバスなどそういった工夫を考えてほしい。楽しく乗れる工夫をしてほしい。
- 近藤委員** : 実際の生活になると、日頃バスは利用していない。ほとんど自転車である。荷物が多い日などは車を使う。観光に関して言えば、あべのハルカス、両国の相撲、富山など、観光に関してはよく公共交通を利用している。JR、バスにもいいところはたくさんある。それが県民にしっかり伝わってないのではないか。乗ったことない人や、車でしか移動してない人が、私の周りにも多い。体力的にも楽し、楽しいということを伝えていく必要がある。北海道もJRはかなり廃線になっていると聞く。四国も見捨てられるのではないかとはいくらい寂しいときもある。四国は寂しいなと思って生きている。電車に乗っても人が乗っていない。普段バスが通っているが、バスの中は1人とか2人しか乗っていない。日常生活で利用してもらうように、アプローチをもっと広げていくべきである。子供たちにも利用してもらうようにアプローチしたらいいのではないか。
- 横手委員** : 近藤さんの意見と重なる部分もあるが、皆さんが公共交通の現状を知って、若い方は車利用が多いと思うが、皆さんに公共交通の大事さを意識してもらうことが必要だと思っている。車利用の方も1ヶ月に1回でいいので、電車やバスを利用するなど、地域ぐるみで取り組んでいくべきである。親がそういう考えであれば、子供にも浸透していく。車利用が増えてくると、これから高齢者が増え、免許を持たなくなったり、返納したりする方も増えてくると思う。そういう方をうまく公共交通にシフト変えられるようなうまい仕組みを考えればいいと思う。東温市の滑川溪谷など景観がよいバス路線もあるので、知り合いを誘ってバスの乗り方を案内したり、楽しみながら路線バスに乗ったりしている。そういうことを各地域でやっていけばいいのではないかと思う。
- 西本会長** : 一部の市町でも網形成計画を策定している自治体もある。アドバイス等をいただきたい。
- 西予市** : 今年3月に網形成計画を策定した。2年かけて策定した。1年目にニーズ調査し、2年目に策定した。状況把握がやはり大切なことだと思う。ニーズもたくさんある。高齢化が進み、車利用が難しくなると、公共交通に期待している部分がある。しかし、利用はまだ少ない状況である。如何に高齢者の方が利用しやすい仕組みを作るかが、我々の課題であった。1度作っても完成ではない。解決に向けて検討を進めている。時間のかかることでもある。しかし、地域の計画とあわせて、愛媛県全体の計画ともリンクしながら、より利用しやすいものにしていくというのを考えている。
- 東温市** : 昨年度策定した。地域の方の声が大切であった。ニーズ調査など実施した。市民団体の方がいたので、最初から地域に入ってもらって、生の声を聞きながら検討した。いろんなニーズがあった。新しい路線やダイヤ改正などあったが、利用はあまり増えなかった。そ

これらの反省点を踏まえて、パンフレットや時刻表作成などしながら、利用に繋がるような努力をしている。今回、県で作成する計画をもとに、市のほうでも連携しながら考えていきたい。

四国運輸局：オブザーバーとして参加させていただいた。地域交通の環境は厳しい状況にある。日々
の取組には感謝している。今回、愛媛県全域の網計画を作成するとあるが、前例は少ない。
奈良県や青森県あたりであるが、ほとんど例がない。調整など困難なことはあると思うが、
連携して取り組んでいただきたい。運輸局としてもバックアップしていきたい。計画策定
にあたって3点ほどお伝えしたい。1点目、愛媛県では3地域で特色がある。交通について
も、地域の特色、現状、課題を踏まえたうえで地域の将来像を描いていただきたい。2点
目、広域計画ということで、幹線系統がメインとなると思うが、幹線のみならず、対象地
域の公共交通全ての課題を把握して検討する必要がある。市町のコミュニティバスやデマ
ンドバスなどを考えることも重要なので、市町と連携しながら進めていただきたい。全て
の交通モードになるので、航路なども計画のなかでは言及いただきたい。3点目、デー
タに基づいて検討いただきたい。今回の資料においても、かなりの確かな分析をしてもらえ
ている。OD調査などの数字に基づいて、長大路線でも乗降が多い区間と少ない区間がある
と思うので、データに基づいて最適化などの検討をしていただきたい。スクールバスと路線
バスのバッティングとあったが、運輸局では、全自治体のスクールバスへアンケート調査
をして、報告書としてまとめている。HPでも公表しているのでご参考にしていただきたい。

西本会長：意見を踏まえて今後の検討を進めていただきたい。日程もタイトであるが、精力的に進
めていただきたい。

4 その他

事務局：次回会議までの予定を確認したい。資料3に示しているが、次回会議は10月末～11月初
旬開催予定である。各調査の分析結果をもとに、案を示していきたい。それに際して、各
市町や交通事業者の方に打合せを行いたいとも思っている。地区ごとの打合せ会議などを
重ねていきたいと思っている。9月には国体と愛媛大会もあって忙しいと思うが、ご協力い
ただきたい。最後にパンフレットの案内させていただく。県をまたいで連携している公共
交通の事例である。大分県との連携とのことで、バスとフェリーで連携している。実証実
験という形で今年度取り組んでいる。もう1つは高知県とJRで連携している事例である。
ご紹介させていただく。

以上